

2025 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 日本コークス工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 松 岡 弘 明
(コード：3315 東証プライム)
問合せ先 人事・総務部長 奥 苑 隆 幸
(03-5560-1311)

コークス生産体制最適化および減損損失等の計上に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、北九州事業所のコークス炉 4 炉団の内、老朽化 2 炉団を休止し、コークス生産体制最適化を行うこと、および本件意思決定に伴い、2026 年 3 月期第 3 四半期において、減損損失等約 50 億円を計上することを決議いたしましたのでお知らせします。

記

1. コークス生産体制最適化の内容

所 在 地 福岡県北九州市若松区響町 1 丁目 3 番地

名 称 日本コークス工業株式会社北九州事業所

生産能力 コークス生産能力 200 万 t/年を 110 万 t/年規模とする

炉団毎の現状と方針

炉団名	1 A 炉団	1 B 炉団	2 A 炉団	2 B 炉団
稼働時期	1973 年 1 月	1974 年 1 月	1980 年 4 月	1977 年 7 月
更新時期	2006 年 5 月	—	2024 年 9 月	—
決定方針	稼働継続	2025 年度内 に休止	稼働継続	2026 年度上期中 に休止
窯数	46 門	46 門	54 門	54 門
生産能力	45 万 t/年	45 万 t/年	65 万 t/年	45 万 t/年

[2024 年度生産実績（2 A 炉団更新工事 2022 年 12 月～2024 年 9 月に伴う生産休止含め）：87 万 t]

2. 休止理由

当社北九州事業所のコークス生産は、2006 年 5 月に更新した 1 A 炉団、2024 年 9 月に更新工事が完了した最新鋭の 2 A 炉団は安定した生産を継続する一方で、事業所操業開始以来約 50 年稼働している 1 B、2 B 炉団は老朽化が進み生産量が減少、延命努力を継続するも、炉補修コスト増や消費エネルギー効率の悪化等、コークス事業の競争力を低下させる要因が増大してまいりました。

かかる状況下、今後のコークス市況や省エネルギー、CO₂ 排出削減の必要性などの事業環境も勘案し、主力 2 炉団体制にスリム化することにより競争力を強化し、安定した収益力を確保できるコークス事業への再構築を図っていくものであります。

3. 今後の見通し・業績への影響

1 B、2 B 炉団休止の意思決定に伴い、2026 年 3 月期第 3 四半期において、付帯設備も含め、減損損失等約 50 億円を計上する予定です。併せて、休止炉の安全対策工事、2 炉団体制集約化のための工事を実施する計画です。

なお、本件に伴う 2026 年 3 月期決算への影響は、本日公表の「2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）決算短信」ならびに「業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」の通り連結業績予想に織り込んでおります。

以 上

【参考】 通期連結業績予想(2025 年 11 月 11 日公表)および前期実績

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
当期連結業績予想	96,000	2,700	1,700	△ 5,200
前期実績	99,045	△8,562	△10,269	△13,908